

医療薬学A (Clinical Pharmacy A)					担当教員
					教授 楠本 正明
					講師 今西 孝至
					講師 本橋 秀之
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	講師 河野 修治
薬学専門教育(講義)	4年次 前期	講義	1.5単位	必修	

【概要】

近年、チーム医療推進の中で様々な医療改革が進められている。薬剤師の業務は調剤を中心としたものから、患者情報を考慮した処方監査や服薬指導、薬物血中濃度モニタリングによる個別処方設計、注射薬の混合調製など、患者を中心としたものに变化してきた。良質な薬物療法の提供と医療の安全確保に貢献するためには、医療環境の変化への適切な対応が薬剤師に求められる。本講では、薬剤師業務の基礎を中心に、新しい業務展開について講述する。

【授業の一般目標】

臨床現場において薬剤師業務を安全かつ適正に遂行するために、薬剤師の業務概要と社会的使命を理解し、薬剤師として身に付けておくべき基本的知識を修得する。

【準備学習(予習・復習)】

次の学習項目について教科書に目を通し予習をしておくこと。講義で配付された資料や板書を元に復習すること。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	医療と薬剤師(1)	河野修	医療倫理、薬剤師の使命について説明できる。 医療を取り巻く最近の状況について説明できる。	D1-(1)-1~3
2	医療と薬剤師(2)	河野修	医薬分業の仕組みと意義を概説できる。 他の医療従事者との連携について説明できる。	D1-(1)-5,7
3	医薬品の有効性と安全性	河野修	臨床試験を概説できる。 後発医薬品とその役割について説明できる。	C17-(4)-1~4
4	医薬品管理業務(1)	河野修	医薬品管理の意義、医薬品の購入、在庫、供給、使用管理について説明できる。	D1-(4)-1
5	医薬品管理業務(2)	河野修	医薬品の品質管理について概説できる。 特別な管理を必要とする医薬品(毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬など)について説明できる。	D1-(4)-2~4
6	医薬品管理業務(3)	河野修	特別な管理を必要とする医薬品(特定生物由来製品・放射性医薬品など)について説明できる。	D1-(4)-5~8,10,11
7	注射薬・輸液(1)	本橋	輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。 体内の電解質について説明できる。	D1-(4)-17,19,20
8	注射薬・輸液(2)	本橋	輸液の投与設計ができる。 注射薬の配合変化、効能・効果、用量・用法、相互作用を説明できる。	D1-(4)-17,19,20 D1-(3)-2,4,6~8
9	注射薬・輸液(3)	本橋	アミノ酸輸液、脂肪乳剤、高カロリー輸液の適応を説明できる。 ビタミンや微量元素の欠乏症について説明できる。	D1-(4)-17,19,20
10	製剤業務、消毒薬、院内感染対策	本橋	製剤化の基礎について説明できる。 消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。 消毒薬調製時の注意点を説明できる。 院内感染の回避方法について説明できる。	C18-(1)-7 D1-(4)-12,13,21,22 D1-(5)-3
11	リスクマネジメント	楠本	事故事例を列挙し、その原因を説明できる。 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	D1-(5)-1,2,5~7
12	副作用の初期症状とグレード(1)	楠本	副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	D1-(5)-4
13	副作用の初期症状とグレード(2)	楠本	副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。 リスクマネジメントにおける薬剤師の責務を説明できる。	D1-(5)-4 C18-(1)-2
14	セルフメディケーションとOTC	今西	一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。 治療に必要な患者情報源を列挙し、説明できる。 主な一般用医薬品の使用目的を説明できる。 患者の背景や情報を把握できる。	B-(1)-5 C15-(2)-1,2 C18-(3)-2 D1-(6)-9

			患者の状態を把握し、適切なOTCであるか検討する。	
15	総括・まとめ			

(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書 医療薬学 (第6版)	乾 賢一 編	廣川書店

【成績評価方法・基準】

定期試験で評価する (100%)。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

楠本：月曜 17時～18時 (臨床薬学教育研究センター3F 楠本教授室)

今西、本橋、河野：月曜 17時～18時 (臨床薬学教育研究センター3F 情報処理室)